

(埼玉県委託事業)

令和6年度

薬局のかかりつけ機能強化推進事業

報告書

オンライン服薬指導の推進

令和7年3月

一般社団法人埼玉県薬剤師会

目 次

1. 背景	P. 1
2. 目的	P. 1
3. オンライン服薬指導に関する研修会の実施	P. 1
4. アンケート調査の実施	P. 1
5. アンケート調査の結果	P. 2
6. 考察	P. 6
※ 資料	P. 7
・ 研修会資料（資料 1）	
・ オンライン服薬指導に関する研修会アンケート（資料 2）	

1. 背景

オンライン服薬指導は、情報通信機器を活用しつつ実施する服薬指導であり、厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会の「薬機法等制度改革に関するとりまとめ」（平成 30 年 12 月 25 日）を踏まえ、令和元年度に所要の法令改正が行われ、令和 2 年 9 月から施行された。

このような中、新型コロナウイルス感染症の流行および拡大に対応するため、厚生労働省は「新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱いについて」（令和 2 年 4 月 10 日付け厚生労働省医政局医事課、医薬・生活衛生局総務課事務連絡）を発出し、本来のオンライン服薬指導とは異なる時限的・特例的な対応として、画像のない電話等を用いた服薬指導（いわゆる「0410 対応」）が可能となった。

これらの動き等も含め、オンライン服薬指導等の取扱いに関する見直しが行われ、令和 4 年 3 月 31 日付けで改正省令が公布され、「薬剤師の責任・判断により初回からオンライン服薬指導を実施可能とすること」「オンライン診療・訪問診療において交付された処方箋以外の処方箋においてもオンライン服薬指導の実施を可能とすること」「服薬指導計画の見直し」等が行われた。

オンライン服薬指導の実施にあたっては、その特性を理解した上で有効に活用できるよう適切な体制整備等を行いつつ、患者の個別の状況に応じて薬剤師が薬学的知見に基づき適切に対応することが求められており、継続的に研修会等を開催することで、オンライン服薬指導に対応できる薬剤師を育成していく必要がある。

2. 目的

オンライン服薬指導の対応ができる薬局の整備を目的として、オンライン服薬指導に対応できる薬剤師の育成強化を図る。

3. オンライン服薬指導に関する研修会の実施

下記のとおりオンライン形式で実施し、252 名が受講した。

日程：令和 6 年 7 月 7 日（日）

形式：zoom を使用したオンライン形式

内容：オンライン服薬指導（資料 1）

講師 （一社）埼玉県薬剤師会 社会保険委員会 委員 立澤 明

4. アンケート調査の実施

上記研修会受講者を対象に、終了時に研修会の効果を検証するためのアンケート調査を実施した。（資料 2）

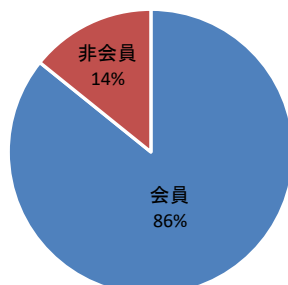
5. アンケート調査の結果

受講者 252 名中 183 名から回答があった。

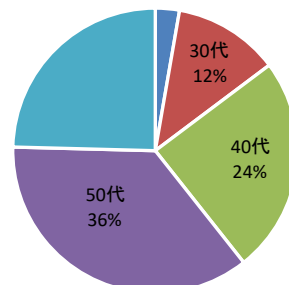
Q1. 会員区分

会員	157
非会員	26

Q1 会員区分



Q2 年代



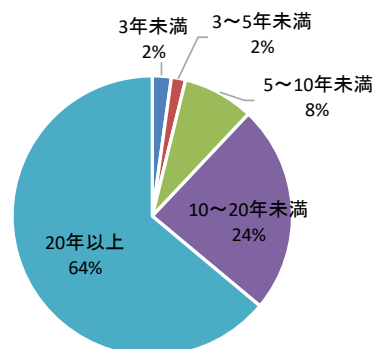
Q2. 年代

20代	5
30代	22
40代	45
50代	66
60代以上	45

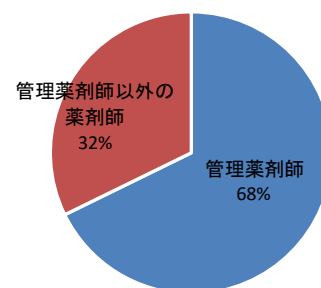
Q3. 経験年数

3年未満	4
3～5年未満	3
5～10年未満	15
10～20年未満	44
20年以上	117

Q3 経験年数



Q4 管理薬剤師か否か



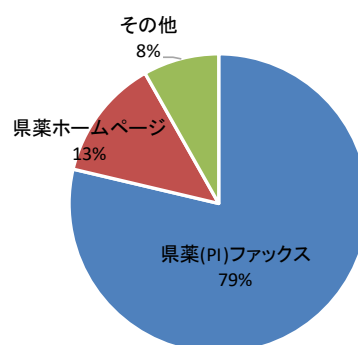
Q4. 管理薬剤師か否か

管理薬剤師	124
管理薬剤師以外の薬剤師	59

Q5. 研修会を何で知ったか？

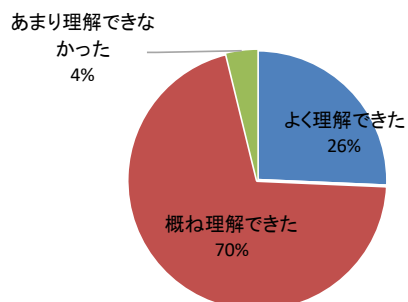
県薬 (PI) ファックス	144
県薬ホームページ	24
その他	15

Q5 研修会を何で知ったか？



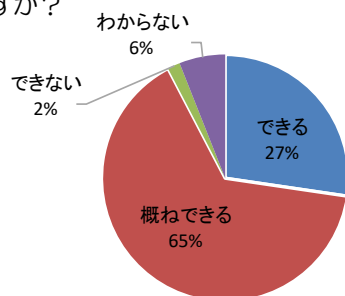
Q6. オンライン服薬指導の制度は理解できたか？

よく理解できた	47
概ね理解できた	129
あまり理解できなかった	7
ほとんど理解できなかった	0



Q7. 本日の講習を今後の業務に役立てることができますか？

できる	50
概ねできる	119
できない	3
わからない	11

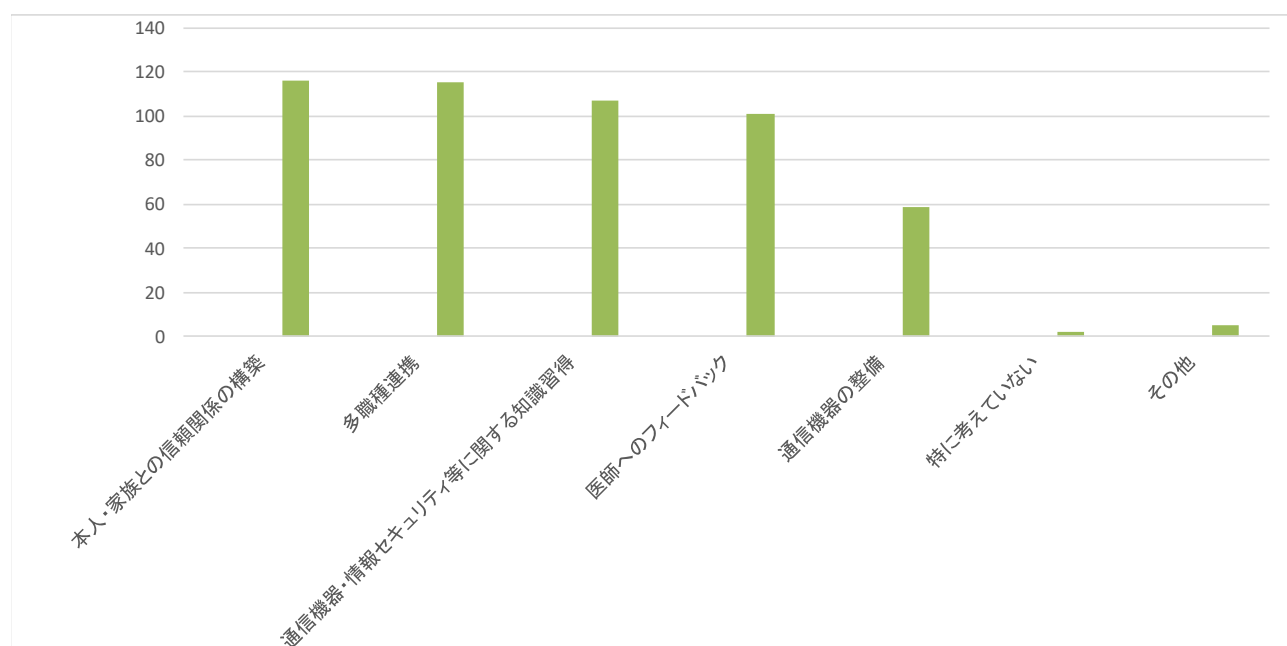


Q8. 本日の講習を受講し、明日からどのような行動をしようと考えているか？（複数回答可）

本人・家族との信頼関係の構築	116
多職種連携	115
通信機器・情報セキュリティ等に関する知識習得	107
医師へのフィードバック	101
通信機器の整備	59
特に考えていない	2
その他	5

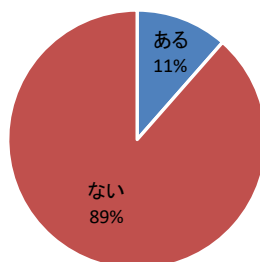
<その他の具体的な内容>

- ・ダウンロードした資料などをもう一度確認して理解し、運用を始めたいと思った。
- ・今の職場では通信機器等の準備は行えていない。開設者に今日の研修会を聞いてほしかった。
- ・職員へのフィードバック
- ・ポリファーマシーにおいても他職種の連携は重要だと思うので。
- ・薬局内スタッフへのフィードバック



Q9. 今までにオンラインで服薬指導をしたことがあるか？

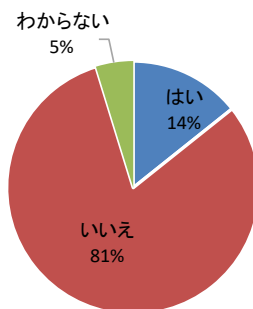
ある	21
ない	162



Q9で「ある」と回答した方（n=21）※以下設問同様

Q10. その患者はかかりつけですか？

はい	3
いいえ	17
わからない	1

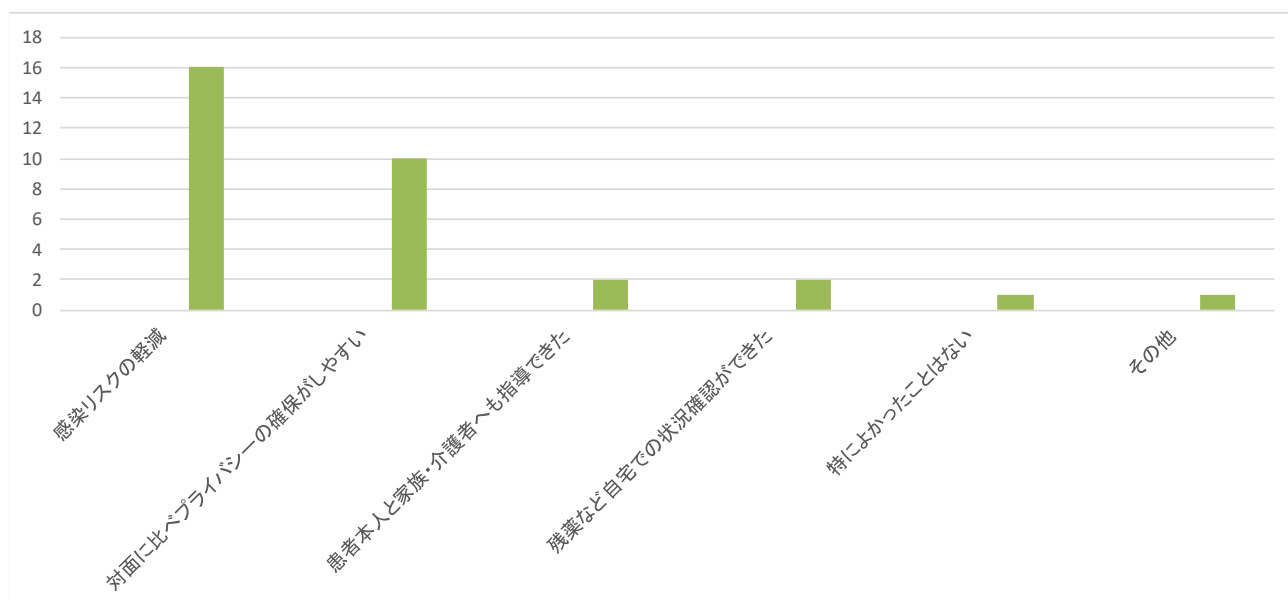


Q11. オンラインで服薬指導をしてよかったことはどのようなことですか？（複数回答可）

感染リスクの軽減	16
対面に比べプライバシーの確保がしやすい	10
患者本人と家族・介護者へも指導できた	2
残薬など自宅での状況確認ができた	2
特によかったことはない	1
その他	1

<その他の具体的な内容>

- ・患者は病院や薬局での待ち時間を減らせるので、本人がメリットを感じているのがわかる。

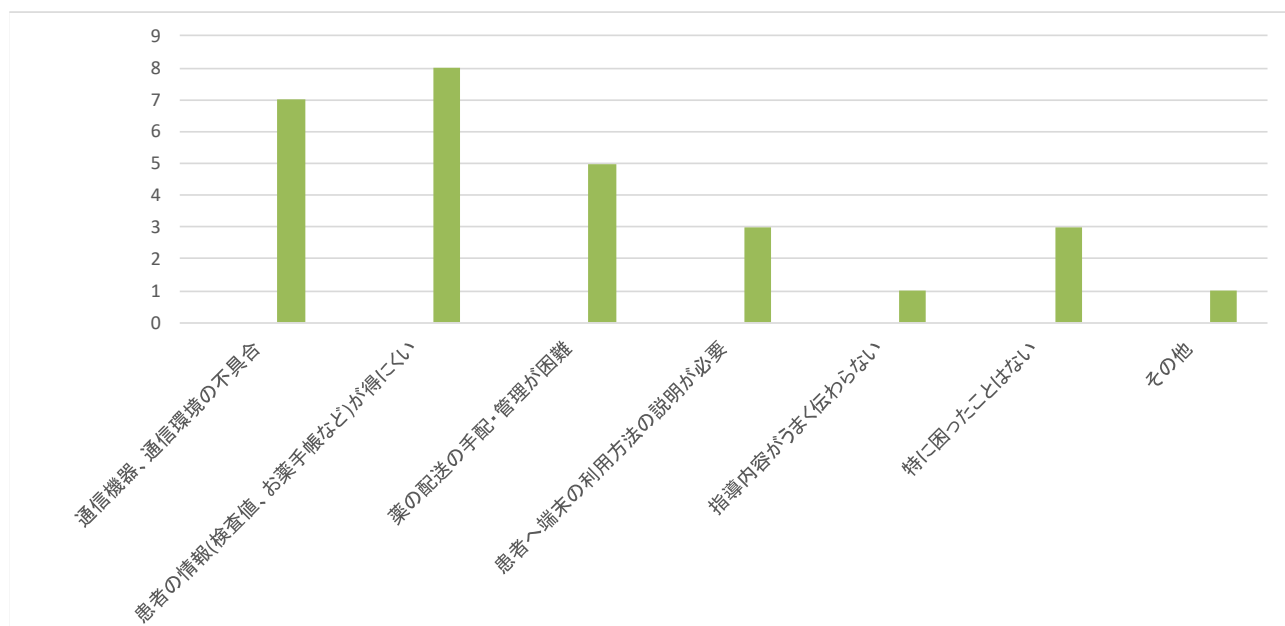


Q12. オンラインで服薬指導をした際に困ったことはどのようなことですか？（複数回答可）

通信機器、通信環境の不具合	7
患者の情報（検査値、お薬手帳など）が得にくい	8
薬の配送の手配・管理が困難	5
患者へ端末の利用方法の説明が必要	3
指導内容がうまく伝わらない	1
特に困ったことはない	3
その他	1

<その他の具体的な内容>

- ・表情が読み取りにくく、服薬について十分理解していただけたのか不明な点があった



6. 考察

アンケート回答者のうち、オンライン服薬指導の現状については、オンライン服薬指導を行ったことがあると回答したのが 11.48%となり、昨年（13.66%）、一昨年（20.59%）と年々減少傾向である。この結果に関しては、オンライン服薬指導を行っている実績が減少しているのか、又は行ったことのない薬剤師が参加しているのか今後分析する必要がある。制度に関しては96.17%の参加者が理解しているとの回答を得られたため講習会の効果があったと考える。

明日からの行動に関しては、本人・家族との信頼関係の構築、多職種連携が上位に上げられ、受講者の多くはオンライン服薬指導に関しても信頼関係の構築が重要であると思っていることが分かった。また、通信機器・情報のセキュリティの習得、通信機器の整備と答えた参加者も多数おり、オンライン服薬指導を行うための準備をしていることがうかがえる。

その一方で、現在、電子お薬手帳のアプリを用いて、オンライン服薬指導を行えるものが増加しており、どのシステムを導入するか非常に苦慮している薬局があるのではないかと考える。

実際にオンライン服薬指導を行ったことがある薬剤師の見解では、感染リスクの軽減、対面に比べプライバシーの確保がしやすいがあげられている。逆に困ったことに関しては、通信機器、通信環境の不具合、薬の配送の手配・管理が困難上げられている。今後は通信環境の悪い場合のオンライン服薬指導、また、オンライン服薬指導後の薬の配送などは課題であり、整備する必要があると考える。

国は、医療 DX 推進体制整備に今後も注力し、オンライン資格確認、電子処方箋の普及により、オンライン服薬指導のニーズは高まってくると考えられるが、薬剤師、患者共にオンライン服薬指導に関して、実際に行ったことがない方が大多数であると思われる。今後、薬剤師のみならず、患者へのオンライン服薬指導の普及啓発が必要である。今後も埼玉県薬剤師会としては、すべての薬局でオンライン服薬指導が出来るような体制を整えられるような研修会などを行っていくことが重要であると考ええる。